

## 令和7年7月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.18Km<sup>2</sup>)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	6,149	9,558	4,768	4,790	5	△ 8
2 千 石	4,366	7,053	3,547	3,506	8	18
3 内 山	6,031	8,211	4,415	3,796	14	11
4 大 和	3,731	6,744	3,357	3,387	△ 3	△ 15
5 上 野	7,536	15,296	7,458	7,838	△ 5	△ 17
6 高 見	7,739	13,583	6,459	7,124	8	21
7 春 岡	7,538	11,392	6,048	5,344	△ 3	1
8 田 代	11,455	21,864	10,462	11,402	△ 5	△ 7
9 東 山	10,458	18,927	9,240	9,687	10	22
10 見 付	4,618	8,379	4,221	4,158	△ 3	△ 4
11 星 ケ 丘	3,610	6,796	3,015	3,781	△ 10	△ 11
12 自由ケ丘	3,532	6,979	3,170	3,809	△ 3	3
13 富士見台	6,492	14,784	6,691	8,093	△ 10	△ 28
14 宮 根	3,850	7,852	3,620	4,232	9	2
15 千代田橋	3,796	8,040	3,748	4,292	2	0
千 種 区 計	90,901	165,458	80,219	85,239	14	△ 12
R6.7.1	89,692	165,306	80,187	85,119	5	△ 65
対 前 年 比	1209	152	32	120	9	53
名 古 屋 市	1,191,100	2,336,447	1,146,484	1,189,963	1,209	483
愛 知 県 ( R7.6.1 )	3,401,099	7,453,257	3,712,269	3,740,988	3,135	△ 164

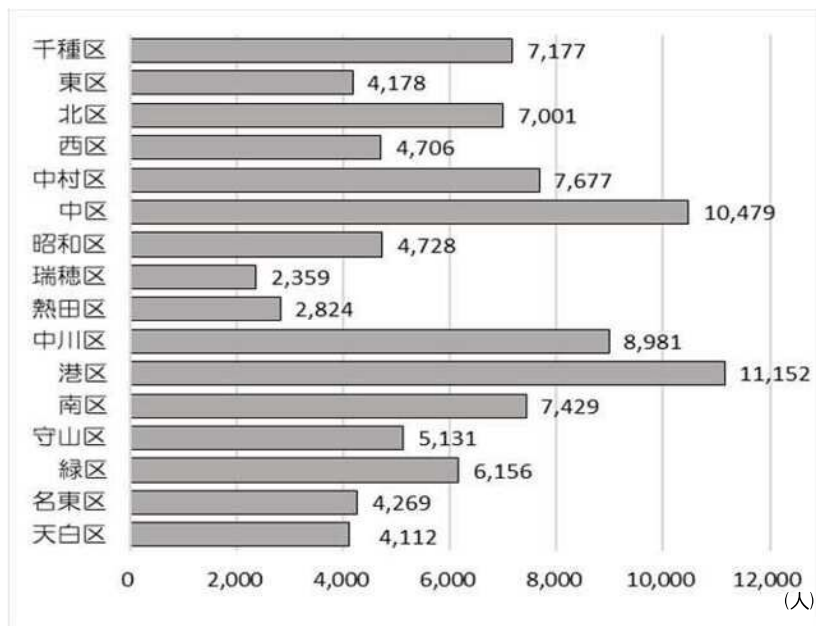
前月中の増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	88	148	△ 60	960	912	48

【参考】

国勢調査千種区人口				これまでの最大人口と最小人口(千種区)	
昭和60年	163,762	平成17年	153,118	最大人口	173,598 (昭和50年2月1日)
平成2年	156,478	平成22年	160,015		
平成7年	148,847	平成27年	164,696	最小人口	146,727 (平成11年4月1日)
平成12年	148,537	令和2年	165,245		

注) 学区別の世帯数と人口は、令和2年国勢調査結果を基礎とした本市独自の推計値であり、後日総務省から公表される数値と異なる場合があります。

## 千種区の外国人人口の概況



今回は、名古屋市及び千種区の外国人人口の概況を見ていきます。

まず、名古屋市内の区別外国人人口について見てみます(図1)。

名古屋市内の各区の令和6年10月1日現在の外国人人口の数を比較してみると、港区が11,152人と最も多く、続いて中区が10,479人となっています。千種区は7,177人で、16区の中で6番目の多さとなっています。

図1：区別外国人人口（令和6年10月1日現在）

次に、千種区の国籍別外国人人口について見てみます(図2)。令和6年10月1日現在の千種区の国籍別外国人人口を見ると、中国籍の人口が2,268人と最も多くなっています。

次に、令和6年10月1日現在の千種区における、平成27年からの10年間の外国人人口の推移について見てみます(図3)。

千種区では平成27年からの10年間で外国人人口が2,157人増加しており、平成27年から令和元年までは外国人人口が増加傾向にあります。令和2年から2年間は新型コロナウイルス感染症の影響か、外国人人口が減少傾向となっていますが、令和4年から再び増加傾向となっています。

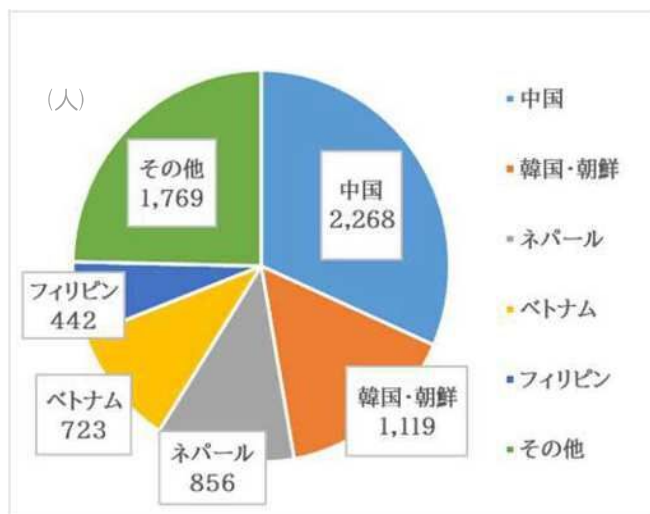


図2：千種区の国籍別外国人人口  
(令和6年10月1日現在)

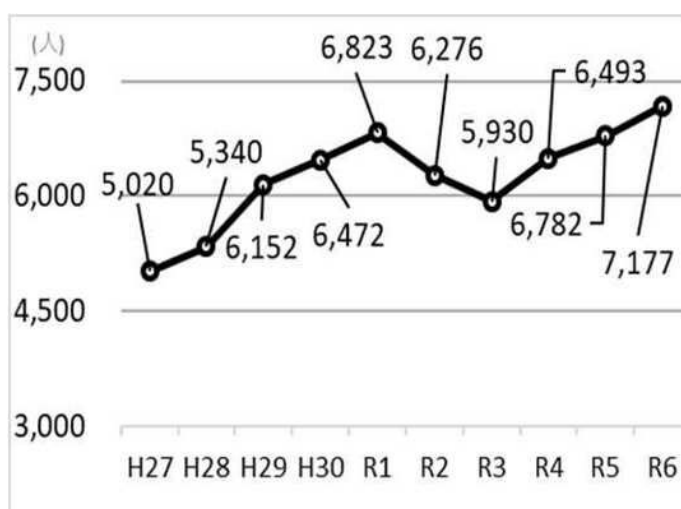


図3：千種区の毎年10月外国人人口の推移  
(令和6年10月1日現在)